

第 1 回浪江町中心市街地再生計画職員検討会

日時：平成 28 年 9 月 8 日（木）14：00～16：30

場所：浪江町役場本庁者 2 回大会議室

【グループワークとりまとめ】

①「浪江の中心市街地像とは」

A グループ

- ・生活必需品が揃うショッピングができればいい
- ・イベントの開催：十日市、はだか祭り→浪江町らしい愛着のあるまちづくり
- ・人が集まる場所の整備→飲食店、飲み屋街

B グループ

- ・以前浪江駅周辺には、飲食店街があり賑やかだった。
- ・新町通りは、複数の商店街があり、一挙に生活雑貨を購入することが出来た。
→浪江駅前周辺を整備し、一店舗毎ではなく、複数の店舗を整備し、活性化させるべきである。

②「そのために必要なプロジェクトとは」

A グループ

- ・浪江駅前に、町の顔となるもの
- ・道の駅（交流・情報発信拠点）は、浪江町の核となるので、中心市街地からの誘導施設の整備
- ・JR が、開通するので、JR を利用して浪江町に来てもらえる計画
- ・新町通りの事業再開のパイオニアの誘導→商売が成り立つ町からの支援策
- ・公衆トイレの整備→汚いと人は、集まらない
- ・郊外店舗に対する対抗策

B グループ

- ・浪江駅前に、集まるためのシンボルづくり→花時計、ポケモン像、観光案内等
- ・人が集まるには、公衆トイレの整備が必要
- ・道の駅との連携（回遊性のあるまちづくり）→レンタサイクルの利用や途中の休憩施設の建設
- ・スポーツセンターとの連携
- ・南北の川（請戸川・高瀬川）を利活用できる施設の建設
- ・住む人にとって住みやすい場のづくりが必要
- ・チャレンジショップの仕組みづくり

【総評】

萩原研究員

- ・レンタサイクルの整備には、道路整備が不可欠
- ・浪江駅前は、ソフト・ハード両面の整備が必要
- ・帰宅困難区域の人々の考えも計画に取り入れるべきではないか
- ・行政がメインで行う事業と官民一体となって行う事業の整理

窪田特任教授

- ・次回職員検討会には、具体的に議論できる材料を提出したい